

シリーズ学会紹介

国際コミュニケーション学会

愛知大学国際コミュニケーション学部の設立に伴い、1998年より発足し、既に14年の歴史を歩んでいた国際コミュニケーション学会は、「国際」・「コミュニケーション」をキーワードとして関連諸学問を包括する学術的組織である。

学部構成は、言語学を中心とする学科群や、比較文化を中心とする学科群に大きく分けられるので、本学会構成員も同様の専門領域をカバーしている。一見幅が広すぎるようであるが、その豊かさがまさにメリットである。活発な学会活動が営まれ、それらの内容や特色は、次のようにまとめられる。

第一、学会誌『文明21』の発行である。正会員や準会員が投稿論文などを発表する場となっており、およそ年に2回の刊行がなされる。研究会や国際交流プログラム等の学会活動の記録も含め、時にはテーマ別の「特集」を組み立てる構成になる場合もある。国内外の学会、研究機関や研究者との刊行物交換も行われている。

第二、学術講演会、研究会、ワークショップ、国際シンポジウム等、様々な形で専門性の高い学術交流事業を主催して

いる。これらによって、構成員の研究発表や共同研究を含め、諸外国の研究者や国内の研究者を招聘した国際的な情報交換や学術集会在数多くの成果を果らせている。その一例として、これまでに国際交流プログラムは58回にわたって実施されてきた。

第三、学部生や国際コミュニケーション研究科の大学院生への様々なサービスの提供である。学科誌の無料配布のほか、学部生のために、卒業研究指導教員の推薦に基づいて、学科会議や教授会の議を経て、「学会賞」と「努力賞」を授与するほか、日本の伝統文化を理解するための歌舞伎鑑賞のプログラムなども実施してきた。卒業研究論集も後輩の参考となっている。

学会誌『文明21』の原稿募集や特集体制および専門性のさらなるレベルアップなど、国際コミュニケーション学会の抱える課題は山積し、様々な実践や工夫が必要とされていますが、日々改善していくことはむろん可能であろう。

(文責：国際コミュニケーション学会幹事 周星)

地域政策学センター Center for Regional Policy Studies (CRPS)

「地域を見つめ 地域を活かす」を理念に「地域貢献力」を育てる地域政策学部

日本中のどんなまちでも何らかの問題を抱えています。それらを解決するには、1つの学問分野にとらわれず、さまざまな側面からアプローチする総合的な視点が必要となっています。また、住民の視点で問題を分析し、多くの人とともに解決に向けて行動し、未来に向けた政策立案をする力も重要になっています。特に「地方の時代」のスローガンのもとで国から地方への権限委譲が検討されている今日、地域に貢献するだけでなく未来を創造する「地域貢献力」を持ったリーダーの育成が急務となっています。

以上の背景と社会的要請にこたえて、2011年4月、愛知大学豊橋キャンパスに、「地域を見つめ 地域を活かす」を理念とする地域政策学部を設置しました。地域政策学部は、法学分野と経済学分野をベースに、公共政策、地域産業、まちづくり、地域文化、健康・スポーツ5つのコースを通して地域の未来を創造する人材を育てる学部です。また、「アクション・リサーチ」つまり問題の分析・検証より前にまず行動を起こし、その結果を分析して次の行動を修正し、より良い政策を導き出すという実践的な研究スタイルを重視しています。さらに、本学が創立から60年間で培ったネットワークを活かし、地域の自治体や団体、企業と連携した授業も行っています。地域政策学部の名称は、高崎経済大学に次いで全国で二番目です。

地域連携を重視した学術研究を行い地域政策学の確立に寄与する地域政策学センター

地域政策学部の設置に合わせて、教授陣が一体となって研究活動を推進していく拠点とすべく、「地域政策学センター」を設置しました(センター員は地域政策学部専任教員)。他学部が保有している学会と専門的な研究所を合体したものとイメージしていただければと思います。実質的な活動は2012年4

